

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

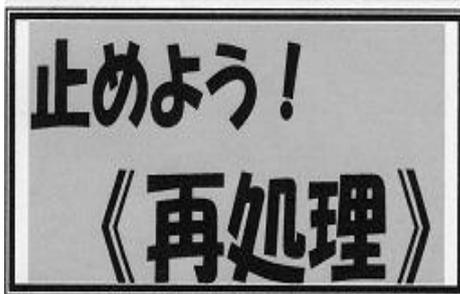
郵便振替 02240-5-102650

《再処理 / 岩手の環境》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

2009(平成21)年

5月24日

第71号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

国もあきれた技術と対応

保安規定違反 日本原燃報告書

もはや事業者の資格なし



目系についてはフランジからの漏えいが無いことを確認

ガラス固化セル内写真 日本原燃・HP「2月24日報告書」から

「ガラス固化セル」は体育館二つを縦長に並べ天井の高さを倍にしたくらいの大きな作業部屋で、1m以上の分厚いコンクリートの壁で囲まれています。人間が入れば放射能で死に至りますので、作業は全て外部からの遠隔操作です。今年一月に「広島原爆約二・五五分(セシウム137換算)に相当する高レベル放射性廃液が漏れる事故がありました。大半が未回収のままです。

「廃液漏れ」トラブル日誌

- 08年10月 使用済み核燃料せん断により、高レベル廃液240m³生成、貯蔵。
- 12月16日 ガラス固化装置トラブル観察のため、高レベル廃液供給配管を取り外し、閉止フランジ(蓋)で止める。(「作業計画書」を作らず実施し違反と指摘される)
- 24日 ガラス溶融炉に差し込んだ攪拌棒が曲がり、耐火レンガが剥落。
- 09年1月9日~21日 高レベル廃液が貯蔵槽から配管内を上昇、閉止フランジ(蓋)から滴下。12日間気付かず、放置。
- 21日 2系列の閉止フランジ(蓋)からトレイ(受け皿)への高レベル廃液滴下発見。フランジのボルトを締め直し滴下停止。
- 22日 B情報として青森県に通報
- 2月1日 再び フランジの一つから滴下発見 閉止フランジ取り付け時に新しいガスケット(パッキング)に交換しなかったためか。
- 18日~26日 セル内洗浄(「作業計画書」なし、指摘される)。汚染配管・サポート部洗浄中に、電気配線の貫通プラグとスリーブの間に洗浄液浸入。隣室で、放射線を観測。(「30分離れて最大約720マイクロシーベルト/時間」)
- 7日 遠隔操作のクレーン故障

高レベル放射性廃液漏えいについて日本原燃は四月三〇日、経産省原子力安全・保安院に対して、「保守作業等に関する保安規定違反について」と、「組織要因に関する分析」という二つの「報告書」を提出しました。残念ながらどちらの報告書も高レベル放射性廃液をガラス固化する技術的欠陥について、これまでの報告書以上の具体的な分析はなく、何故このような重大事故が相次いだのか、納得のゆく説明にはなっていない。今回の「保安規定違反」は「原子炉等規制法」第五〇条と第四六条の七に基づくもので、経産大臣は事業者の指定の取り消し又は停止の命令が出来ます。

施設の補修作業実施

という三項目と

「保安規定違反」の保安院の指摘は、

五項目の指摘

保安規定違反について
原燃報告書から

高レベル放射性廃液漏えいについて日本原燃は四月三〇日、経産省原子力安全・保安院に対して、「保守作業等に関する保安規定違反について」と、「組織要因に関する分析」という二つの「報告書」を提出しました。残念ながらどちらの報告書も高レベル放射性廃液をガラス固化する技術的欠陥について、これまでの報告書以上の具体的な分析はなく、何故このような重大事故が相次いだのか、納得のゆく説明にはなっていない。今回の「保安規定違反」は「原子炉等規制法」第五〇条と第四六条の七に基づくもので、経産大臣は事業者の指定の取り消し又は停止の命令が出来ます。

計画書に関する

廃液供給配管の取り外しの作業の補修作業計画を作らなかった。

固化セル洗浄作業について補修作業計画の作成を行わなかった。

の二項目の違反です。「安全神話」の崩壊

この指摘に対して日本

原燃は、については、警報が鳴ったが、非放射性の「シール水」の流入と考えると高レベル廃液漏洩ではないと判断し、ポット内の液体のサンプルは取らなかった」と回答、又

については、「配管は廃液が供給されない隔離された状態であったので高レベル廃液の主要な流れを構成するとは認識していなかった」と回答しており、思いこみや基本を無視した判断で「見逃し」「不手際」を重ねていた事が分かります。

さらに、についても「洗浄作業は、固化セルは厚い壁で担保されており、しゃへい・閉じこめ機能に影響を及ぼさない」と判断したとしており、「安全神話」ともいえる安易な思いこみがあったことが窺えます。

掘り下げが不足な「直接的要因」

違反の「直接的要因」を記述した箇所がありま

す。そこには、

a、「ルール・仕組みに関する要因」として

・リスクを評価し対応する手順が構築されていなかった・保安規定に基づく重要な事項判断の記録を残し多角的確認システムの構築が不十分だった(等々)

b、組織風土に関する要因

・高レベル廃液を取り扱う安全教育の取り組み不足・取り扱いの廃液の性状、設備の構造に関する情報の共有不足・現場業務と保安規定に対する意識不足・再処理安全委員会の保安規定の観点についての認識不足・必要な仕組みの構築や活動を実施してこなかったマネジメントの問題(等々)と記されています。

完成の見通しも立たない

「ガラス固化技術」

「ルールや仕組み」「組織風土」が何故にかくも問題だらけだったのでしょうか。それは、根本的には、放射性廃液をガラス固化する技術は完成の見通しも立たない」という現実があります。

科学技術は万能である」といふ傲慢な考えを捨て人類には制御できない放射能に手を出してしまつたのではないかと自問するなどの謙虚な問題意識が必要で、重大事故を頻発しながら本格操業を急ぐ原燃にこの危険な放

射能を扱う能力や資格があるのでしょうか。

「保安規定違反の認識がなかった」原燃コメント

青森県の「東奥日報」

は、四月二日の紙面で、日本原燃広報部が「保安規定違反との認識がなかった」とコメントしたこと、「洗浄液浸透トラブル」について公表しなかつたことを報じています。四日の社説では、「緊張感の薄さに愕然とする」と強く批判し「人にも環境にも極めて危険な高レベル廃液を扱っているという事業者が常に求められる緊張感が薄いと見える」と断じています。

定期報告へ放射能放出状況

「線を放出しない核種」の数値6倍に訂正

空に放出された放射能の量

(2008年4月~09年3月)

クリプトン85	1京8000兆ベクレル
トリチウム	3兆7000億ベクレル
炭素14	1兆4000億ベクレル
ヨウ素129	2億ベクレル
ヨウ素131	580万ベクレル
線を放出しない核種	26万ベクレル

日本原燃は四月三〇日のホームページ上に、三月までの再処理工場からの放射能放出状況を発表しました。それによると「気体放出状況」の二月の欄の「その他」線を放出しない核種の数値が、これまでの「測定限界値以下(ND)」から、「二六万ベクレル」となっています。三月末発表では、四万二千ベクレルでした。訂正され一桁も大きくなっています。

花とハーブの里で

「六ラプサミット」世話人会



五月一六日、開催中の六ヶ所村内「花とハーブの里・チューリップ祭り」を機会に「六ラプサミット」世話人会が開催されました。会では、四つのアクシオンプランの進捗状況が報告されました。

全国署名開始

「全国署名」についてはサミット参加者からの意見を集約し「海に空に、これ以上放射能汚染を広げないよう再処理工場の稼働凍結を求める署名」とする成案が確認され、署名運動を開始することとしました。

「岩手の会」HPにアップ

「サンバDECAN」

三〇分練習成功

「みんなで出来るキャンペーン(みなCAN Z)」についても話合われ、さっそく「サンバDECAN」チームの練習が作業小屋でなされました。大半が初心者。楽器の名前の説明から始まって三〇分でどれだけやれるか挑戦です。

(ブログ「WELCOME」)

もみなCAN Z」に詳細)



水めがね 本当の安全優先宣言

日本原燃は「放射能漏洩事件」で原子力安全・保安院から五項目の保安規定違反を指摘された。その解明と対策案が四月末日、二編の「報告書」として提出され、「安全の確保が全てに優先する」という原燃社長の宣言も出された。これで危機的事態は改善に向かうのだろうか? 読んでみて、残念ながら、ますます心配になった。その理由の第一は、事実がよく見えないということである。高レベ

ル放射性廃液がなぜ「パージ空気」の調整の失敗などで漏れ、そのことに気がつかなかつたのか。どのくらい漏れて、どのくらい回収されたのか。洗浄したと思いが、きれいになるとは思われない。むしろ、事実として、分厚いコンクリート壁の電気配線などの隙間から高レベルの放射性廃液が浸み出した。測定された放射線の「数値」についても十分な説明がない。「貫通プラグから三〇センチで最大約七二〇マイクロシーベ

ルト/時間」という測定値は保安院の検査資料に載っているが、いつどのようにして測定したもののかの説明がない。事は、作業員が立ち入る隣室での測定値であり重大だ。そのとき作業員は居たのか居なかつたのか? 放射能で汚染された現場で作業を行わなければならぬ人々の被ばくが心配される。現場の労働者・技術者は、「携帯線量計」や「被曝手帳」を保持し正しくチェックされる職場環境で働いているのだろうか。そういうことがきちんと説明された「安全優先宣言」でなければ、本当の安全確保に繋がらない。(尚)